

共同輸配送とドローン配送の検討・実証

協議会名:松江市モーダルシフト協議会

協議会構成員

松江市、ソフトバンク株式会社、株式会社NEXT DELIVERY、株式会社エアロネクスト、セイノーホールディングス株式会社、アスクル株式会社、モルツウエル株式会社

【事業実施背景】松江市では、人口減少影響による将来の物流サービスの維持・継続が大きな課題であり、その解決には新たな物流モデルの社会実装が不可欠である。一方で、社会実装には担い手の確保と、そのための採算性確保が必要であるため、共同配送デポ等の担い手候補企業や複数の物流事業者を協議会に巻き込んだ上で、実装可能なモデルの検討と実証を行う。

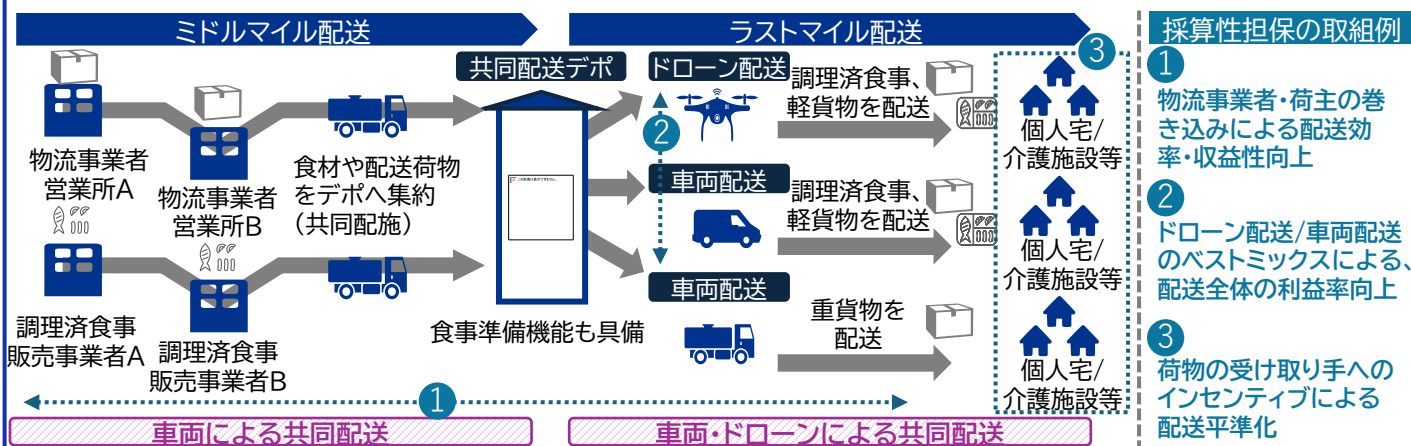
事業内容

Point

以下の【目指す物流モデル案】に関する検討および実証を実施。
ミドルマイル*は、物流事業者・地場事業者の拠点を巡回・集荷し、
デポまで共同配送。ラストマイルは、低輸送効率ルートはドローンで、
それ以外は車両で共同配送。採算性担保のため、インセンティブに
よる輸送平準化、ドローン配送/車両配送のベストミックスによる
配送全体の利益率向上等の仕組みを組み入れる。

〔目指す物流モデル案〕

*ミドルマイル：物流ターミナルや営業所、物流倉庫などをつなぐ中間物流。



想定事業実施効果

- ① **【ドライバー不足緩和】共同配送やドローン活用により、新モダルシフトを行った配送ルートにおける各社ドライバーの配送時間総量を削減**
※「削減可能な配送業務時間」等をKPI候補に設定
(例)現状の配送業務時間＞物流モデル変更後の配送業務時間
- ② **【環境にとらわれない住民の十分な物流サービス享受】住む場所に依らず、物流品質が担保された新たな配送サービス利用より、住民満足度が大きく低下しないモデルを構築**
※「完全注文率」「配送サービスの住民満足度」等をKPI候補に設定
(例)汚破損率・遅延や時間指定非遵守率＜1%
(例)現状の物流モデル住民満足度≧物流モデル変更後の住民満足度
- ③ **【将来にわたる事業継続性担保】共同配送/ドローン導入によるコスト増が事業者の受容可能範囲に収まり事業継続可能なモデルを構築**
※「B2B共同配送の支出削減量」等をKPI候補として設定
(例)現状のB2B配送の支出＞物流モデル変更後のB2B配送の支出